

第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムへの参加報告 —各プログラムの詳細について—

ACSメンバー野村明日香（2017年9月執筆）

1. 第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムの概要

2017年9月5-6日にかけて、愛媛県の愛媛大学において、「第7回 大学図書館学生協働交流シンポジウム」が開催されました。中国四国地方の大学を中心に、東は東京都、南は沖縄県まで、学生・教職員合わせて30の大学から158名が集まりました。東京大学からは、ACSメンバー2名、職員の方1名の計3名が参加しました。



写真1 愛媛大学 総合情報メディアセンター入口

第7回目の今年度のシンポジウムは、「図書館がきりひらく航路(ミライ)—悩み解決・つながり強化—」というテーマのもと、学生協働を行う上で各々が問題を感じていることについて、意見交換・共有が行われました。スケジュールは以下の通りです。

9月5日

- 10:00 - 10:30 開会・挨拶
- 10:30 - 11:50 オリエンテーション
- 12:00 - 13:30 ランチミーティング
- 13:50 - 16:05 ワークショップ
- 16:15 - 図書館見学(愛媛大学図書館)

9月6日

- 9:20 - ポスターセッションについての説明・記念撮影
- 9:30 - 11:20 ポスターセッション
- 11:30 - 11:40 閉会
- 11:45 - 図書館見学(松山大学図書館)

2. 各プログラムについての詳細と参加を通して考えた事

以下では、実施された各プログラムについて、実施順に沿って詳細を記述します。同時に、参加して考えた事や感想についてもまとめます。見出しの()内は、実施場所を示しています。特に言及がない場合は愛媛大学の施設です。

2.1 オリエンテーション(総合情報メディアセンター)

最初に3人のグループに分かれ、アイスブレイクとして「図書館でやりたいこと」をできるだけ書き出していきました。既存のイメージや実現可能か否かにとらわれず、少しでも興味があるイベント等ととにかく挙げていきました。

そして、午後のワークショップに備えて、自分が選択したテーマについて、「A.悩んでいること」「B.現状はどうなのか(できていないこと、止まってしまっていること等)」「C.今の時点でもできていること」「D.未来のありたい姿(こんな状態になっているのが理想)」を付箋に書き、グループ内で共有しました。異なるテーマを選んだ人が、どのような問題意識を持っているのか、他の大学図書館や学生協働団体の現状について、知ることができました。

2.2 ランチミーティング(食堂)

生協食堂において、立食形式の交流会が行われました。学生・教職員の境なく、自己紹介や意見交換、雑談等、気軽にコミュニケーションをとることができました。また、各地から大学が集まっていることもあり、多くのお土産もありました。

2.3 ワークショップ(共通講義棟)

これまで活動を行ってきて、あるいは、これから先活動をしていく上で抱えている悩みについて、学生・職員がそれぞれ興味のあるものを選択し、グループで話し合いを行いました。カテゴリは以下の通りです。

学生	教職員
士気	学生とのコミュニケーション
情報共有	活動の継続
広報(図書館外での)	学生の自主性
企画・活動・団体	学生のモチベーション
図書館の利用	広報・周知
図書館への要望	役割分担
その他	その他

私は、「広報(図書館外での)」を選択しました。ACSのこれまでの活動を通して、イベントの存在やACS自体があまり知られていないと感じ、現在行われている広報活動があまり効果的ではないのではないかと感じていたため、このテーマに魅かれました。同じような悩みを抱える学生と、何が原因か、どのようにすれば良いのかということとじっくりと話し合いたいと考えました。

話し合いの中では、「団体の認知度が高いこと」を将来の理想像とし、その状態に至るにはどうすれば良いかという方向で意見交換を行い、まとめていきました。グループ内でほとんどの学生が挙げていたのが、インターネットを通じた情報発信ができてはいるものの、十分ではないという現状でした。この問題から出発し、理想の状態とのギャップを意識しつつ、どのようなコンテンツや方法ならば学生に届くのか、現在の情報発信方法に何か問題は無いかなどについて話し合いを行いました。そして、大枠としては「1. 団体について知ってもらう→2. イベントを行う→3. 参加してもらう→4. 意見をもらう(次に活かす)→2へ」というような、双方向性を持ちながら、PDCA サイクルのように循環していく活動の在り方が良いのではないかという結論に達しました。団体やイベントに関する告知だけではなく、継続的かつ学生にとって魅力的なイベントの実施、学生の意見を取り入れる事も広報の一環として考えています。

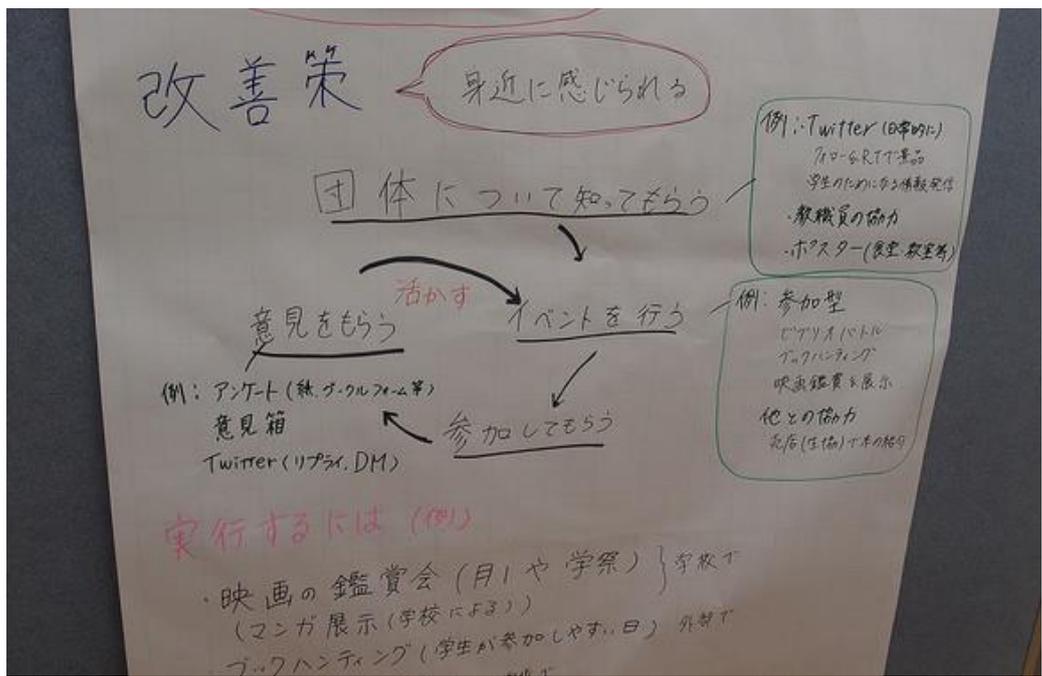


写真 2 広報(図書館外での)C で作成したポスターの一部

印象的だったのは、上記の活動の在り方において、図書館や学生協働団体だけではなく、他の学生や教職員を巻き込んだ、団体の周知方法、イベント企画・実施が必要だという意見です。たとえば、「1. 団体について知ってもらう」という段階では、Twitter 等でフォローと拡散をしてくれれば、その学生に何らかのメリットが発生するキャンペーンを行うというアイデアが出ました。「2. イベントを行う」という段階では、参加型のイベントや、生協・サークル・部活動等、学内の他組織・団体を巻き込んでいくことが提案されました。そして、参加者にイベントに関する意見をもらい、それを次の企画に活かしていくというように、企画の段階にも他の学生を巻き込んでいきたいという合意がなされました。

ACS で行ってきた今までの広報活動を振り返ってみると、確かに、このような双方向性や、図書館以外と協力する機会が少なかったかもしれないと思いました。今後は、図書館外の団体、機関、学生、教職員を、イベント実施・広報を始めとした ACS の活動の様々な局面で巻き込む工夫をしていきたいと考えています。

また、このワークショップでは、「ワークショップの進め方」についても、実践を通して学ぶことがで

きたと思います。問題を認識した後に原因分析を行う進め方と、目標を設定した上でその実現方法を考えていく進め方の2つが提示され、どちらかを選択しました。それぞれの進め方について、手順・手法が示され、今回のワークショップだけでなく、今後のACSにおけるミーティング等にも役立つように感じました。

ワークショップが終了した後は、ポスターセッション形式で各グループが話し合いの結果を発表しました。発表を通して感じたのは、多くのグループが活動の継続性、団体内での情報共有、広報について、今後改善していく必要性に触れていたということです。これらは、学生協働に限らず、団体で活動していく上で不可欠なことです。ボランティア活動として行われ、全員が毎回ミーティングに参加するとは限らないというACSの性質上、より重要なように思います。一朝一夕に画期的解決策が見つかるものではありませんが、スカイプ等を利用した他大学や団体内でのミーティング、掲示板やSNSを利用した情報共有、マニュアルの作成等の工夫をすること、そして、更なる工夫を見直し、模索する機会を持ち続けることが大切だと考えさせられました。また、情報発信として活用するものとして、Twitterが主に挙げられていたことが印象的でした。

2.4 図書館見学(愛媛大学図書館)

ワークショップの後、愛媛大学の図書館を見学させていただきました。図書館自体は建物の2-4階にあります。館内には、愛媛大学図書館の学生協働団体による工夫・企画が随所でうかがえました。例えば、入館方法や校内Wi-Fiの利用方法といった、図書館や情報ツールの使用方法についての案内が、学生の動線を考慮して掲示されていました。加えて、入館ゲート付近には、おすすめ本の展示や、学期末を意識した、レポート・論文関係図書の展示が行われていました(写真4)。特に、このレポート・論文関係図書の展示は、内容だけでなくポスターも学生の興味をひきつけるような工夫がされていました。多くの人が利用したい、あるいは利用しやすいと思える図書館にしていきたいという思いを強く感じました。



写真 4 愛媛大学図書館入口



写真 3 愛媛大学図書館 入館ゲート(2階)

2.5 ポスターセッション(大学会館)

2日目は、シンポジウム参加大学の内、24大学が作成してきたポスターを掲示してポスターセッションを行いました。テーマは、「1. 教えて！みんなの図書館と団体『わたしたちは〇〇です！』」、「2. 理想の図書館に向けた宣言『理想の図書館のために〇〇〇します！』」、「3. 振り返ろう、シンポジウム。『楽しかった！』のその先へ」の3つの中から、1つ以上選択します。私たちは、1に関して発表しました。

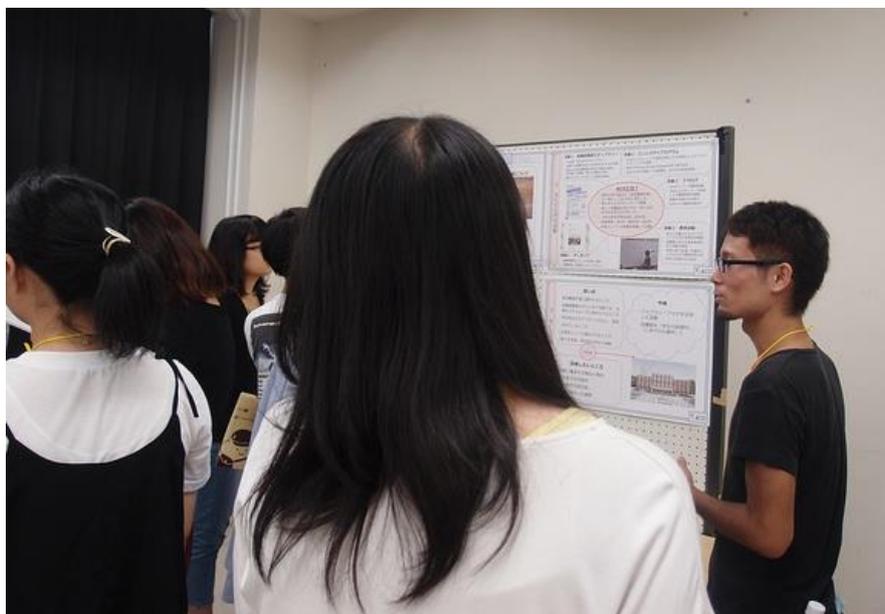


写真 5 2日目ポスターセッションの様子

ポスターについて、多くの方から反応を寄せていただきました。中でも、「身体表現を伴う活動の実施」を始めとしたACSの活動や東京大学の図書館に興味を持っていただけました。また、他の大学の発表から、季節行事や学内の講演等と連動した企画の実施、情報共有方法での工夫等、今後の活動の参考になると感じる情報を得られました。特に後者について、毎回議事録を作成するだけでなく、各グループが担当者にLINEで進捗情報を送信し、担当者はそのコピー・アンド・ペーストにより進捗報告書を作成し、共有するという工夫は、ACSでも活用できるのではないかと思います。そうすれば、他のグループの進捗状況について知ることも出来ますし、ミーティングの時間をより有効に使えるうえに、書類作成担当者の負担も少なくて済みます。

2.6 図書館見学(松山大学)

ポスターセッション後は、愛媛大学の近くにある、松山大学の図書館を見学させていただきました。吹き抜けになっている構造、書庫、個人用閲覧室といった図書館自体の魅力に加え、松山大学図書館の学生協働団体の活動も興味深かったです。図書館内にはC3(松山大学の学生協働グループのこと)掲示板があり、本の紹介文・推薦文が掲示されていました。また、学生がブックハンティングで選書した本の展示コーナーがありました。この学生選書本について、学術的な内容だけでなく、娯楽的要素が強いものもあり、分野も様々でした。更に、本自体と併せて表紙も展示され、本が貸し出されているときにもどのような本があるのかわかるような工夫がされていました。普段読書をしない学生でも、興味を持ちやすいの

ではないかと思いました。



写真 6 松山大学図書館



写真 7 松山大学図書館入口

3. 終わりに

本シンポジウムへの参加を通して、他大学の活動を知り、交流しながら ACS の活動について考える貴重な機会を得ることができました。ただ参加しただけで終わらず、得た知識・情報、自分の考えた事を今後の活動に活かしていきたいです。

本シンポジウムのような、学生協働間をつなぎ、交流・活動を促進するような取り組みが今後も継続して実施され、広がっていくことを願っています。

第7回学生協働交流シンポジウムホームページ：<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/sympo2017/>